

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 4 月 12 日 (2007.4.12)

【公開番号】特開 2004-308903 (P2004-308903A)
 【公開日】平成 16 年 11 月 4 日 (2004.11.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-043
 【出願番号】特願 2004-90232 (P2004-90232)
 【国際特許分類】

F 1 6 D 27/00 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 27/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 27 日 (2007.2.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

図 2 から分かるように、クランプジョーは、その外側の脚部分に設けられていて互いに係合している歯列 1 3 によって互いに結合されていて、その結果内側のクランプジョー 1 0 b は軸方向においてほぼ軸 4 に沿って摺動可能でかつこれにより外側のクランプジョー 1 0 a に対して接近・離反運動可能である。内側のクランプジョー 1 0 b の係合ポジションにおいて、第 2 のクラッチ部分 3 は該クラッチ部分と外側のクランプジョー 1 0 a との間において、クラッチ部分 2, 3 を貫通する磁束により生ぜしめられたクランプ力によって緊締されている。このクランプ力は、クランプジョー 1 0 a, 1 0 b がスリップなしに互いに摩擦係合するように、設定されている。遮断ポジションにおいては、両クラッチ部分 2, 3 は相対的に回転可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

磁束は永久磁石 1 4 によって生ぜしめられ、この永久磁石 1 4 は、第 1 のクラッチ部分 2 の両クランプジョー 1 0 a, 1 0 b と第 2 のクラッチ部分 3 と定置のコア 1 2 と、このコア 1 2 と第 2 のクラッチ部分 3 との間に配置された空隙 1 5 とを通る磁気回路に配置されている。定置のコア 1 2 と、クラッチ部分 2, 3 の磁束を通す領域とは、軟質磁性の材料から成っている。図 1 の上半部には、磁束が磁束線 1 6 によって示され、流れ方向が矢印によって示されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

図 1 及び図 2 から分かるように、第 1 のクラッチ部分 2 のクランプジョー 1 0 a, 1 0 b はそれぞれ保持体 2 5 a, 2 5 b を有しており、この保持体 2 5 a, 2 5 b は、例えば

アルミニウムのような非強磁性材料から成っており、保持体 25 a , 25 b には、互いに間隔をおいて複数の軟質磁性の磁束導体 18 a , 18 b , 18 c が配置されており、これらのうちの磁束導体 18 a は、各 1 つの空隙 15 を磁束移行箇所と接続し、磁束導体 18 b , 18 c は、互いに間隔をおいて位置する磁束移行箇所のうちの、回転軸線 11 に対して半径方向に並んで配置された各 2 つの磁束移行箇所を、ほぼ U 字形に互いに接続している。すなわち図面から明らかなように、磁束導体 18 b , 18 c の U 字脚の自由端部は、それぞれ第 2 のクラッチ部分 3 に向けられている。磁束導体 18 b , 18 c はリング状に形成されていて、回転軸線 11 に対してほぼ同心的に、回転軸線 11 に対して横方向に互いに間隔をおいて位置する複数の列で、回転軸線 11 を中心に巻かれている。以上のことすべてによって、流れ方向が交番する右湾曲部と左湾曲部とを有する磁束経過が生ぜしめられ、右に向かって湾曲した磁束導体 18 c はそれぞれ一方のクランプジョー 10 b に配置され、かつ左に向かって湾曲した磁束導体 18 b はそれぞれ他方のクランプジョー 10 a に配置されている。磁束導体 18 a もまたリング状に形成されていて、回転軸線 11 に対して同心的に配置されている。